



## シリアおよびイラクの文化遺産に関する国際アッシリア学会声明

人類の文明の発祥地である古代メソポタミアの地域に位置するシリアとイラク—その文化遺産が取返しのつかない損害を被る由々しい事態を目の当たりにして、国際アッシリア学会は重大な懸念を表明する次第である。イラクでは1990年から、また、シリアでは2011年から続く人的被害の甚大さは言うまでもないが、両国の文化遺産も深刻な危機に直面している。博物館は略奪の対象となり、考古遺跡は一部もしくは全部が破壊されている。

イラクでは、ユネスコ世界遺産のリストに登録された遺跡、あるいは準リストに記載された遺跡（アッシュル、ハトラ、サマッラ、ニネヴェ、ウル、ニムルド、バビロン、マーシュランドと呼ばれる湿地帯等）が、危機的状況か、または、すでに大部分が破壊されてしまった状況にある。この状況は、シッパルやラルサ、ウルク等ユネスコに登録されてはいないが、同様に重要な遺跡でも見られる。バグダッドのイラク博物館は略奪の被害に遭った。

シリアでも、ユネスコ世界遺産のリストに登録された遺跡、あるいは準リストに記載された遺跡（アレppoの城塞、ボスラ、ダマスカス旧市街、パルミラ、エブラ、ドゥラ・ユーロポス、マリ、ウガリット、テル・シェイフ・ハマド、アパメア、クラク・デ・シュヴァリエ、ハマ、ホムス）が、破壊の被害を被り、ラッカ、ハマ、デイル・エッゾル、イドリブにある博物館は略奪に遭った。

このような文化遺産の破壊とともに、過去の記憶も消え失せることは必至であろう。過去は両国とそこに暮らす人々の歴史の一部であるのみならず彼らの未来の一部でもある。この大規模な破壊が、シリアとイラクの学問や芸術、観光における可能性を損なってしまうのではないかと危惧してやまない。

国際アッシリア学会は、楔形文書あるいは中近東考古学の研究に携わる世界各国の研究者とともに、シリアとイラクの遺跡・記念建造物ならびに博物館の保存と保護を、ここに公に訴える次第である。



*I n t e r n a t i o n a l*  
*A s s o c i a t i o n* for  
*A s s y r i o l o g y*

2014